

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<p>昨年度の課題であった、互いの発言を結び付けながら考えをまとめる力を養う指導は継続して行うことができている。しかし自分の考えを形成し、構成を整えて書くことには苦手意識を抱える生徒が多い。加えて根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことにも課題が見られた。今後は言語活動を通して自分の考えや根拠を明確にした論理的な文章を書く指導に努めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対話的、交流的な授業展開を図り、互いの発言から自分の思いや考えを広げさせる。 ・読書活動の推進や言葉の意味や働き、使い方等に注目させた読み取りを通し、社会生活に生かせる豊かな言語能力を養う。 ・作文などの学習活動において根拠を明確にするための資料の活用方法についても指導していく。 ・古文や漢文の文体やリズムに注意しながら朗読させ、古典作品に親しませる。 ・漢字の読み書き練習に取り組ませる。 	○
社会	<p>「活用」に課題がある。「活用」の力を養っていくため、その基盤となる基礎的な事象の定着に引き続き取り組むとともに、資料の読解やそれに基づいた課題解決を授業にて実践していく。「近世の日本」が低い傾向にある。当時の様子を示す史料や地図等の活用し、変化の激しい日本の政治や体制を対外諸国との関わりを追究しながら本領域についての理解を深めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入部を工夫することによって、興味・関心・態度を高める。 ・基礎的、基本的な内容の定着を図るためにワークシートを効果的に使用する。 ・調べ学習やレポート作成を実施して、表現力を高める。 ・課題解決学習を取り入れ、資料を選択・判断して、それを適切に表現する活動を行う。 	○
数学	<p>基礎を徹底する授業を展開し、すべての生徒が理解できる授業を中心に行った。そのため問題を深く読み解く練習ができていなかったため、すぐに解答を出してしまうことにつながった。</p> <p>「思考・判断・表現」の観点で特に、記述式の解答の正答率が低い。自分の考えを数学的に表現する力を身に付ける必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な事項の理解を徹底しつつ、自分の考えを記述させたり、説明させたりすることにより、工夫して問題を解いたり、解いた答えの意味を考えたりする活動を増やしていく。 ・授業内でICTを活用しながら身近な題材に触れ、視覚的にイメージをつけることを通して、生徒の興味・関心を高め前向きに授業へ取り組ませ、対話的な授業を展開する。 	◎
理科	<p>授業に対して意欲的に取り組む生徒が多いが、考察に十分な時間を取れないことがあり、結果から読み取る習慣を付けられていないことが、実験の結果をもとに考察したり、比較したりする問題の誤答につながった。また、グループ学習をとる時間が少なかったため、意見の共有や討論に躊躇する場面が増えたことにより、他者の考えの妥当性を検討する力の低下につながっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用し、観察や実験の考察時間を十分にとり、自分の考えを言語化する活動を繰り返すことで、結果から必要なことを読み取る力を高めていく。 ・少人数グループで話し合わせたりするなど、自分と他者との意見の相違に気付き、科学的に考える力を高める場面を育成する。 ・知識や概念の関係付けを行う場面をもつことにより、自ら考え、表現する態度や力を養っていく。 	○

音楽	音に関心のある生徒が多いが、主体的に作品の良さを捉え、自らの価値観を探る力に個人差が見受けられる。互いの表現や感性に触れ、音を重ねる活動を積み重ねて、音楽的な特徴を言葉にして伝える力を定着させ、作品を追究する力を延ばしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいに則したペアやグループでの活動を通して、感じ・考えたことを意見交換させ、工夫を重ねさせることにより表現意欲を高める。 ・互いの発表や音を聴き合い、表現を磨く活動を増やす。 ・学習カードやレポート課題で音楽や表現について具体的に書く活動を行う。 	○
美術	作品初期の構想段階での資料や材料を集め、アイデアを深めていく過程での多様性のあるアイデアを想像する力に個人差がある。そのため参考作品やICT機器を活用し、すべての生徒が感性に自信をもち、作品や意見を積極的に発信・享受していく意欲を高めていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・感性を高める手立てとして、観察力・洞察力を発揮させる鑑賞の時間にアクティブラーニングを取り入れながら充実させる。その中で、気付くこと、感じ取ることを細かく、多く体験させる。 ・鑑賞の対象を身近な生活環境や、長く愛されてきた伝統文化などから選び、自分を取り囲むあらゆるものと美術が密接に関わっていることの理解を通して関心を高めさせる。 	○
保健体育	コロナ禍における活動の制限により、全学年共通して基礎体力が低下していることが課題である。運動の種類や方法を学び、個人のレベルに合った活動を選択し、運動習慣の継続を促す必要がある。また、生涯スポーツに携わっていくための指導の工夫が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・指導方法の時間を工夫して、活動時間と運動量の確保を行う。生涯スポーツを見据え、自宅でも簡単に行える運動の活動内容を明示する。 ・プリントやICT機器を活用し、保健の授業と関連付けながら、運動の習慣化や健康に生活するために必要な力を身に付けさせる。 	○
技術家庭	家庭の中で機械や工具、糸や針を使用する生活経験が少ないので、生活で実践しようとする意識が低い。また、機械や工具の仕組みを理解している生徒が少なく、技術科ではネジの締め付けや釘抜きの経験、家庭科では簡単な縫いつけなどの経験がない生徒がいる。基礎・基本的な知識・技能を定着させ、生活での実践につながる指導の工夫が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・製作、試行といった体験的な内容をできるだけ多く授業の中に計画し、知識の習得と活用が生活を豊かにすることを意識した授業計画を立てる。 ・社会生活の中で必要な知識・技能を身に付け、生活に生かす力を育む授業を行う。 ・一つ一つの作品を製作する過程を確認し、ワークシートなどで進捗を確認しながら実習に取り組ませる。 	○
外国語	場面や状況を把握し、質問に的確に応答する力を授業で養っていく。個々の学力を更に伸ばさせるとともに、英語力を活用して自らの考えを積極的に表現する力や、即興で相手とやりとりする力を付けていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間授業と連動した課題を出し、基礎学力の定着を図る。 ・コミュニケーション活動やペア・グループ活動を意図的に取り入れ、自己表現の幅を広げていく。 ・長期休業中には基礎的な復習教材を課し、休業後にその定着度を測る。また、必要に応じて補講を行い基本的な知識・技能の習得につなげる。 	○